

手順書見本

黒犬 ぽんた 様

口腔内の喀痰吸引手順書

△△訪問介護

〇〇訪問看護ステーション

～準備段階～

1. 準備の前にまず、石鹸で手洗いをする。
2. 吸引する為の物品に不足がないかを確認する

吸引びんが一杯になっていないか

洗浄水やアルコール綿、手袋などの不足がないかを確認する。

吸引カテーテルや吸引器などに破損がないかを確認する。

3. 指示書を必ず確認する。(以下確認の為に転記)

(1) 口腔内の喀痰吸引

(2) 吸引圧 20kPa 以下 吸引時間 一回あたり10秒以下

(3) 吸引カテーテル 12Fr

4. 本人の状態を確認したり、家族や訪問看護などからの情報で体調を確認する

食事をいつ食べたか。嘔気、嘔吐などの症状がないか。

痰の量や性状の変化、意識の変化、発熱、パルスオキシメーターの数値変化

ゴロゴロ、ズルズル、ゼロゼロ等、痰が溜まっていると思われる音や振動の有無

その他体調変化を確認する事！

→いつもと様子が違う時は、訪問看護に連絡して指示を仰ぐ事！

指示を仰ぐ時は、直接電話をして聞きましょう！！

あなた⇒サービス提供責任者⇒ケアマネ⇒看護師では、十分に伝わりません！

〇〇訪問看護ステーション 電話番号 045-XXX-XXXX

～緊急連絡先～

家族携帯 父オリバーさん	080-XXXX-XXXX
△△訪問介護	045-XXX-XXXX
〇〇訪問看護ステーション	045-XXX-XXXX
藪医院 藪先生	045-XXX-XXXX
□□居宅支援事務所	045-XXX-XXXX

～実施段階～

5. 本人より吸引の依頼を受けるか、意思を確認する。
6. 姿勢を整える(いつもは座ってもらっています。)
7. 口腔内、鼻腔内やその他症状を確認する

口腔内	出血の有無、義歯の状態、痰の貯留状況、食べカス等の有無
義歯	は吸引前に外しておく。吸引後に洗浄しておく
鼻腔内	出血の有無、鼻汁の有無
その他	顔色(チアノーゼの有無)、表情、むせ込みの状況等

→いつもと様子が違う時は、訪問看護に連絡して指示を仰ぐ事！

8. 義歯は吸引前に外しておく。(吸引後に洗浄しておく。)
9. 手袋をして、吸引カテーテルを不潔にならないように取り出し、接続し、スイッチを入れる。
10. 洗浄水を吸って、カテーテル内部と周囲を洗い流す。
11. カテーテルを折り曲げて閉塞させ、吸引圧が20kPa 以下になっている事を確認する。カテーテルの先端に水分がついている場合は、よく切っておく。
12. これから吸引することを本人に伝えてから、吸引カテーテルを口腔内に入れ、両頬の内側、舌の上下周囲を吸引する。
☆挿入は咽頭の手前まで！ゲェってなるようだと入れすぎです！
13. 吸引中の様子や調子を確認する

顔色が急に悪くなってきていないか。
意識状態に変化がないか。
嘔吐や嘔気の有無。
吸引物に血液が混じっていないか。
痰の性状がいつもと違う。
パルスオキシメーターの値がいつもより低下する など

→状態変化がある時は、直ちに緊急時対応手順へ

14. 一回で吸引しきれなかった場合は、吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、洗浄水を吸って内側を洗い流してから、再度吸引する。
15. 吸引出来たら、使用済み吸引カテーテルは外側をアルコール綿で拭き取った後、水を吸って内側を洗い流してから、保存容器の消毒液を吸引カテーテル内に吸引する。
16. 吸引器のスイッチを切り、吸引カテーテルを消毒液の入った保存容器にもどす。
17. 手袋をはずし、手洗いをする。そして、利用者に吸引が終わったことを告げ、確認できる場合、痰がとれたかを確認する。

18. 利用者の顔色、呼吸状態等を観察する。

顔色(チアノーゼの有無)や苦しそうな表情など変化
パルスオキシメーターの数値変化
呼吸音や呼吸回数、呼吸のリズムの変化(息が荒くなったりしていないか)

→いつもと様子が違う時は、訪問看護に連絡して指示を仰ぐ事！

19. 体位を整える

20. 吸引した物の量、性状等について、ふり返り確認する。

～終了後～

21. 吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。

22. 洗浄用の水や保存容器の消毒液の残りが少なければ取り換える。洗浄水や消毒液、アルコール綿は継ぎ足さない！

23. ノートに状態を記載しておく。その他記録を行う。ヒヤリハットがある場合報告書を記載する。

<吸引中の緊急時対応手順>

- ① 吸引を直ちに中止し、気道確保に努める。嘔吐している場合は横に向け誤嚥を防ぐ体位をとる。
- ② 状況を確認して、訪問看護ステーションか家族に連絡をして指示を仰ぐ。
- ③ 必要時主治医に連絡をする

作成日 平成 25 年 2 月 10 日

改定日 平成 25 年 4 月 15 日

手順書作成責任者

△△訪問介護

〇〇訪問看護ステーション

サービス提供責任者

担当看護師

〇子

〇代